

報道から見るパーキンソン治療の新しい試み

◆ メスを使わず超音波で ◆



「北海道支部ホームページ」 & 「徳洲新聞」から

一昨年、全くメスを使わない、超音波による新しい治療法が開発されました。この臨床試験について NHK 帯広が夕方のニュースで伝え、「NHK ニュース おはよう日本」でも全国報道されました。

PD 友の会北海道支部はホームページに、次のように記しています。

2016 年 6 月 7 日

パーキンソン病で臨床試験 帯広・北斗病院 脳に超音波当て症状改善

【帯広】 帯広市の北斗病院は 30 日、難病のパーキンソン病患者の関節のこわばりや手の震えといった症状を、脳内の特定部位に超音波を当てる治療で改善させる臨床試験を国内で初めて行ったと発表した。病院によると、同種の治療は通常、手術で頭蓋骨に穴を開けて行われるが、この方法ではその必要がない。治療後、患者の手指の動きが滑らかになるなどの効果があったという。今後、同様の試験を行い、実用化を目指す。(中略) 患者は約 20 年前に発病した帯広市の 50 代女性で、関節のこわばりや運動障害などの症状に悩まされてきた。

パーキンソン病では、脳内で運動や感情をコントロールする部位「淡蒼球」が、運動機能に過剰にブレーキをかけていることが分かっている。臨床試験では、患者は超音波を照射する特殊なヘルメットをかぶって MRI に入り、医師らは MRI の画像を見ながら、淡蒼球の 1 点に超音波を当てる。すると熱によって淡蒼球が凝固して変化し、運動機能がスムーズになるという。

そして 10 か月後の昨年 5 月、湘南藤沢徳洲会病院もこの MR ガイド下集束超音波治療 MRgFUS による PD 治療に成功し、徳洲新聞(2017 年 5 月 15 日付)が、これを非常に分かりやすく詳しく伝えていいますので、一部紹介します。